



岐阜県政記者クラブ加盟社各位

| 令和8年2月5日（木）岐阜県発表資料 | | | |
|--------------------|-------|-------|--|
| 担 当 課 | 担 当 係 | 担 当 者 | 電 話 番 号 |
| 未来創成課 | 第一係 | 澤村 | 内線 2714 直通 058-272-8141 FAX 058-278-2608 |

「働いてもらい方改革」に関する優良事例集（第四弾）を発表します

県では、「従業員が働きやすい業務や時間帯に働いてもらうことで、最も生産性が高くなる」ことに着目し、柔軟に雇用方法を整えるなど、従業員目線に立った企業側の意識改革を狙いとした「働いてもらい方改革」を推進しています。

このたび、県内企業が取組を進めるにあたっての参考としていただくため、県内企業の先進的な取組をまとめた優良事例集（第四弾）を、下記のとおり発表します。

記

1 掲載企業

別紙一覧のとおり（10社）

（※庁内各部局や所管の各協会・団体等より情報収集の上、当課で訪問・調査して作成）

2 掲載先

県公式ホームページ

<https://www.pref.gifu.lg.jp/page/428277.html>



3 その他

今回の発表で計40社公表済み

[参考]

第一弾：令和7年 6月12日 10社

第二弾： 9月10日 10社

第三弾： 11月12日 10社

※今後も調査を継続し、第五弾まで優良事例を追加・公表する予定です。

「働いてもらい方改革」とは

（１）背景

労働の担い手が急速に減少していく人口減少社会における経営戦略として、一つにはロボット・生成ＡＩなど、デジタル技術を活用してビジネスモデルを変革するＤＸ（デジタル・トランスフォーメーション：省人化・効率化）が求められています。

併せて、労働者の意欲と能力を向上させ、働きがいと働きやすさを高めていくＣＸ（コーポレート・トランスフォーメーション：経営戦略や体制の変革）の推進が求められています。

（２）取組の狙い

従来から、「働き方改革」が進められていますが、この「働いてもらい方改革」とは、ＣＸの取組みの一つとして、特に「従業員が働きやすい業務や時間帯に働いてもらうことで、最も生産性が高くなる」ことに着目し、従業員の目線で柔軟に雇用方法を整え、労働効率を向上させるなど、従業員目線に立った企業側の意識改革を狙いとしています。

（３）目指す方向性

人口減少や就労意欲の多様化により長時間フルタイムでの採用が困難になっています。一方、子育て中の方や高齢者など、短時間の労働やリモートワークであれば働ける方々が多数存在しています。こうした多様な労働ニーズを持つ方々に最も働きやすい働き方を実践してもらい、企業における「労働力確保」と「生産性向上」を同時に目指します。

また、この取組を進めることで、若者や女性の県内定着を図り、高齢者や障がい者などの活躍の場や社会参加機会の創出を併せて目指します。

（４）具体的な取組

➤柔軟な勤務時間の導入

多能工化（１人が複数業務のスキルを取得）や分業制（業務の切り分けや細分化）などを進めることによる超短時間勤務（１～３時間程度／日）の推進等

➤柔軟な勤務体系の導入

フレックスタイムや裁量労働制（実際の労働時間ではなく、仕事の成果・実績などで評価を決める制度）、短時間正社員制度の導入など柔軟な勤務体系の導入 等

➤柔軟な就労形態の導入

リモートワークの活用 等

➤その他

ＡＩ、情報通信技術（ＩＣＴ）の活用をはじめとしたＤＸ、子連れ出勤制度、高齢者・障がい者向けの職場環境整備 等